

第18章 福島県会津少年自然の家

第1節 概要

会津少年自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより、心豊かで心身ともに健全な少年を育成することを目的とした社会教育施設である。昭和56年4月に開所され、今年度末で開所以来の延利用者は79万人を越えた。

特に、今年度は次の教育目標を掲げ、その達成に努めるとともに、だれもが利用しやすい、魅力的な施設をめざして、運営面の改善を図ってきた。

〈教育目標〉

「心豊かで、自ら生活を創造し、実践するたくましい少年を育てる。」

- (1) 自然に親しむ活動を通じて、自然の恩恵にふれ、自然を愛する心や敬けんの念を育てる。
- (2) 集団宿泊生活を通じて、友愛心を深め、自律心、協調性を養い、規律を守り、責任を重んじ、進んで奉仕する態度を育てる。
- (3) 野外活動を通じて、最後までやりぬく体力と心を育てる。

1 運営委員会

運営委員会の委員は次のとおりである。

氏名	役職名
議長 山口 林助	会津坂下町長
副議長 芦沢 健	福島市町村教育委員会連絡協議会調査研究部長、会津坂下町教育委員会教育長
五ノ井三男	福島県小学校長会理事、両沼支会長
中山 雄助	福島県中学校長会理事、両沼支会長
齋藤 好栄	福島県PTA連合会副会長
山形 洋一	福島県公民館連絡協議会副会長
堺 百人	福島県子供会育成会連絡協議会副会長
山野 邊喜勝	北会津地区社会教育委員連絡協議会会長
唐橋 久枝	喜多方市子ども会育成会連絡協議会役員

運営委員会は、次のとおり2回開催した。

- 第1回運営委員会（平成8年7月19日開催）
- 第2回運営委員会（平成9年2月12日開催）

2 平成8年度重点目標と成果

(1) 研修活動の充実

- ① 利用団体の主体的な活動を推進するため、学校団体指導者事前研修会、社会教育団体指導者研修会、社会教育団体事前打合せ会や実地踏査等を通して、引率指導者の指導力の向上を図った。
- ② 利用団体の実態やねらいに即した活動計画が立案され、主体的に研修が推進されるよう指導・援助に努めた。
- ③ 利用団体の主体的な活動が展開されるよう、標準生活時間や各種つどい等の柔軟な運営に努めた。
- ④ 所員と引率指導者との役割分担を明確にして活動の充実を図った。
- ⑤ 青少年の自主性を育て、当施設の特徴を生かした活動プログラムの開発に努めるとともに、指導資料の改善に努めた。

(2) 主催事業の効果的運営

事業のねらいに即した魅力ある内容を計画し、関係機関・団体等を通して、事業の啓蒙に努めた結果、参加者の拡大が図られ、成果をあげることができた。

- ① 「自然に親しむ少年のつどい」では、参加者自らの創意と協力による手づくりの「住みか」での原始生活体験や、旧越後街道サバイバルウォーク等での体験を通して、心身を鍛えることができた。

また、グループ活動を主体とした自主的な協同生活により、友情を深め、主体性と忍耐力、自然と調和して生活していこうとする心情を育てることができた。

- ② 自然に親しみつつ、親子のふれあいを深める「親子キャンプのつどい」や「親子白銀のつどい」は、親子のふれあいばかりでなく、他家族との交流や親睦も図られ事業の目的を達成することができた。
- ③ スキーを通して、「会津の冬」を体験させ、寒さに負けないたくましい心と身体を育てる「少年スキー教室」は、県内各地からの参加者があり、スキー技術の向上も図られ、その目的を達成することができた。
- ④ 「野外活動実技指導者研修会」は、野外活動技術および指導力の向上を図り、指導者としての資質を高めることを目指し、青少年教育の指導者をはじめ、大学生や高校生も多数参加し、充実した講師陣によって研修が進められ、成果をあげることができた。
- ⑤ 学校週5日制実施に伴う第2・第4土曜日の休業日に、子ども達の自主性と創造性を育てる、自然体験活動等を主とした学校週5日制対応主催事業を7回実施した結果、次のような成果がみられた。

ア、事業の趣旨が理解され、家族での参加も多く、親子のふれあいや他の家族との交流を深めることができた。

イ、当所の特徴を生かした事業を季節に合った時期に実施することにより、各事業とも定員以上の参加者があった。